

(様式8)

公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(平成22年9月30日)

|              |                 |           |                         |
|--------------|-----------------|-----------|-------------------------|
| 事業コード        | H22 - 農 - 終 - 3 | 区 分       | 国庫補助<br>県単独             |
| 事業名          | 経営体育成基盤整備事業     | 部 局 課 室 名 | 農林水産部農地整備課              |
| 事業種別         | ほ場整備            | 班 名       | 農地整備班 (tel)018-860-1824 |
| 路線名等         | 新波地区            | 担 当 課 長 名 | 菅原 徳蔵                   |
| 箇所名          | 秋田市雄和新波         | 担 当 者 名   | 石川 厚                    |
| 総合計画との<br>関連 | 政策コード 08        | 政 策 名     | 自給力、需要創造力を高めよう農林水産業     |
|              | 施策コード 04        | 施 策 名     | 新しい農業を切り拓く多様な経営体の育成     |
|              | 指標コード 05        | 施策目標(指標)名 | ほ場整備率(累計)               |

1. 事業の概要

|  |  |  |   |                                     |                            |                   |                   |
|--|--|--|---|-------------------------------------|----------------------------|-------------------|-------------------|
| 事業の<br>背景及び<br>目的  | 本地区は秋田市雄和の南端、雄物川左岸部に開けた水田地帯である。現況は10a区画で農道が狭く、用排兼用の土水路で地下水位が高いなど、効率的な営農や複合経営の支障となっている。また、農業従事者の高齢化に加え、新規就労者の減少など地域農業を支える担い手の確保・育成が喫緊の課題である。<br>このため、ほ場の大区画化や農地の汎用化を行う本事業の実施を契機として、意欲ある担い手に大規模な農地の利用集積を図り、低コストで付加価値の高い水田農業の確立を目指すものである。 |  |   |                                     |                            |                   |                   |
|  | 事業期間   | 前回(H17年) H12年 ~ H19年<br>終了 H12年 ~ H20年     | 総事業費  | 前回(H17年) 15.2億円<br>終了 11.8億円        | 国庫補助率                      | 50%               |                   |
| 事業<br>効果の<br>要因<br>変化<br>及び<br>発現<br>状況                            | 事業規模   | 前回(H17年) 区画整理工 73.9ha<br>終了 区画整理工 73.9ha   |   |                                     |                            |                   |                   |
|  | 事業費<br>内訳内容<br>(千円)<br>及び<br>要因変化  | 経<br>内<br>費<br>訳                           | 前回評価計画  | 最終                                  | 増減 -                       | 理由                |                   |
|  |  |  | 事業費   | 1,521,000                           | 1,181,000                  | -340,000          |                   |
|  |  |  | 工事  | 1,308,000                           | 992,000                    | -316,000          | 暗渠排水面積等の減に伴う事業費の減 |
|  |  |  | 用補<br>その他   | 31,000<br>182,000                   | 27,000<br>162,000          | -4,000<br>-20,000 | 暗渠排水面積等の減に伴う事業費の減 |
|  | 事業内容   | 区画整理 73.9ha<br>暗渠排水 49.2ha<br>測量設計<br>用地補償 | 区画整理 73.9ha<br>暗渠排水 47.0ha<br>測量設計<br>用地補償  | 区画整理<br>暗渠排水 -2.2ha<br>測量設計<br>用地補償 |                            |                   |                   |
|  | コスト・効果対比較  |  | 費用便益変化の主な要因(前回評価 終了)  |                                     |                            |                   |                   |
|  | 最終コスト<br>終了C / 前回評価C = ( 0.78)   |  | 【便益】<br>大きな変化はない。   |                                     |                            |                   |                   |
|  | 費用便益<br>前回評価B / C = ( 1.28)<br>終了B / C = ( 1.64)   |  | 【費用】<br>事業費の減 1,521,000千円 1,181,000千円<br>暗渠排水 49.2ha 47.0ha 暗渠排水面積の減<br>暗渠排水資材の変更による減 |                                     |                            |                   |                   |
|  | 目標<br>達成率  | 指標名  | 評価箇所における担い手等への農地集積率   |                                     |                            |                   |                   |
| 指標式  |  | 地区内の担い手等の経営面積 ÷ ほ場整備地区面積                   |   |                                     |                            |                   |                   |
| 指標の種類  |  | 成果指標                                       | 業績指標  | 低減指標の有無                             | 有 無                        |                   |                   |
| 目標値a   |  | 51.3%(37.9ha)                              |   | データ等の出典                             | a: 活性化計画書<br>b: 流動化達成状況報告書 |                   |                   |
| 実績値b   |  | 51.2%(37.8ha)                              |   |                                     |                            |                   |                   |
| 達成率b/a   |  | 99.8%                                      |   | 把握の時期                               | 22年 3月                     |                   |                   |
| 指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法<br>指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 データの出典含む |  |  |   |                                     |                            |                   |                   |
| 自然環境の<br>変化  | 整備にあたっては一級河川雄物川の左岸に位置しているため、泥水が河川に流さないよう濁水防止対策を実施するなど環境に配慮した。  |  |   |                                     |                            |                   |                   |
| 社会経済<br>情勢の変化  | 本県の強みである水田のフル活用を基本に、「食料自給力」を向上させるため、生産基盤の強化、担い手への経営支援、各種技術実証、販売体制の強化などを総合的に取り組む『あきた型自給力向上対策』が平成21年度からスタートした。   |  |   |                                     |                            |                   |                   |
| 事業終了後の<br>問題点及び管理・<br>利用状況   | 事業を契機として、設立された農業生産法人1組織((資)ランドワーク)と認定農業者4名によって、地区面積の51%が利用集積され、効率的な営農が展開されている。   |  |   |                                     |                            |                   |                   |

|                      |   |
|----------------------|---|
| 住民満足度等の状況<br>(事業終了後) | 満足度を把握した対象 受益者 一般県民 (時期: H22年 9月)<br>満足度把握の方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット<br>その他の方法 (具体的に )<br>満足度の状況<br>事業終了後、受益者に対するアンケートの結果、労働時間(短縮されている、やや短縮80%)、ほ場の乾田化(乾田化されている、やや乾田化93%)、維持管理(節減されている、やや節減79%)で効果が発揮されており、またほ場整備全体(満足、やや満足78%)についても満足度が高い。 |
| 上位計画での位置付け           | 「あきた21総合計画」<br>担い手への農地の利用集積を促進し、効率的・安全的な農業経営の生産基盤となるほ場の整備率を高める。(H22年度までに76%)  |
| 関連プロジェクト等            | なし  |
| 前回評価結果等              | 選定または継続 改善 見直し 保留又は中止<br>指摘事項   |
|                      | なし  |
|                      | 指摘事項への対応<br>なし  |

## 2. 所管課の自己評価

| 観点   | 評価の内容(特記事項)   | 評価結果 |
|------|---|------|
| 有効性  | 住民満足度の状況<br>A B C<br>アンケート調査から、ほ場整備事業の総合的評価については、受益者29名中78%が満足・やや満足、地域住民3名中100%がまあまあ良かったと評価しており、満足度は高い。   | A    |
|      | 事業の効果<br>A 達成率100%以上 B 達成率80%以上100%未満 C 達成率80%未満<br>担い手等への農地集積割合の達成率は99.8%であり、事業による有効性は高い。  | B    |
|      |   | C    |
| 効率性  | 事業の経済性の妥当性<br>A B C<br>経済性の判断として費用便益比は、1.0以上に対して1.64であり、経済性は妥当である。  | A    |
|      | コスト縮減の状況<br>A 縮減率20%以上 B 縮減率20%未満 C 縮減なし  | B    |
|      |   | C    |
| 総合評価 | A (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い)<br>水稻を基幹作物として、大豆、WCS(ホールクロップサイレージ)に取り組む複合経営が展開されるなど、事業の効果は発現している。<br>有効性、効率性とも評価が高く、農家や地域住民からも高評価を得ており、事業の妥当性が高い。 |      |

## 3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

|   |
|---|
| 担い手等への農地集積について、より高い目標を目指し達成できるよう今後も指導を行っていきたい。また、コスト縮減や環境配慮に積極的に取り組むとともに、地域農業の目指す姿に応じた整備、更なる複合経営への取り組みや戦略作物の産地づくりを推進する。 |
|---|

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

|              |
|--------------|
| 県の対応方針を可とする。 |
|--------------|

## 総合評価の判定基準

| 総合評価の区分    | 判定基準                | 総合評価 |
|------------|---------------------|------|
| A(妥当性が高い)  | 全ての観点の評価結果が「A」判定の場合 | B    |
| B(概ね妥当である) | 「A」判定、「C」判定以外の場合    |      |
| C(妥当性がない)  | 全ての観点の評価結果が「C」判定の場合 |      |